

No.99 ロベルト・G・ヴィラヌエヴァ 「都市の神」

Roberto G. Villanueva

北川フラムさんのコラム / 1995 (平成7) 年 10 月 15 日付 立川市市報記事より

この (平成7年) 10月13日でファーレ立川は1周年を迎えた。多少の事故があったとはいえ、ファーレのアート^の妖精 (作品) たちはあたたかく守られ、人々に親しまれ始めているようだ。事故といえば1年前に2回にわたってフィリピンのビラヌエバの作品が壊された。今は厨子^{ずし}に入れられ年1回のご開帳 (10月13日) で拝観するしかないこの作品は、フィリピンの稲の神様で、同じアジア日本の、農業で暮らした私たちにつながるものだ。彼は現代の都市に農業の記憶と、植物への感謝を伝えたかったのだ。乳房とペニスのある神様は豊穡^{ほうじょう}を意味している。

この像が皆に親しまれるように時間をかけて大切にしていきたいと思う。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

美術を一般の人々へと近づけるユニークで意味深い試みであるファーレ立川プロジェクトの主催者およびアート・プランナーの皆様、おめでとうございます。

紀元二千年が近づくにつれ、美術の社会における役割は世界中で劇的に変化しています。

視覚的で認知可能な世界と、物理的現象を越えた世界との媒介者として、美術はユニークな位置を占めるようになってきました。

感性や創造性を通じて、アートは社会環境についての無意識の感覚や思考をひとつの形にすることができます。それは、例えば絵画という目に見える形、音楽という聞くことができる形、彫刻という触れることができる形であります。アートはこれらすべての表現手段を使って人間の本質と社会の懸け橋となるのです。こうして、アートは個人や社会の虚栄を越えた目的に奉仕します。

立川プロジェクトのための作品『都市の神』は、アジアの米文化における豊穡の女神よりインスピレーションを得ました。この彫刻は、銅を現代的な方法に様式化して作られています。

像の顔は鏡面仕上げにしたステンレスでできており、見る人は像の上に、反射した自らの姿を見ることとなります。こうして、見る者は、自らとこの古代の象徴とのつながりを感じます。ここでも、アートは過去と現在だけでなく、個人と社会のより深い根っこの懸け橋として機能します。

今度日本に行き、この作品をファーレ立川に設置することを楽しみにしています。